

## 佳作

### 私を支える存在

岩手県田野畑村立田野畑中学校

2年 八角 梨央

東日本大震災でお父さんを亡くしました。

2011年3月11日。私は0歳で震災の記憶なんて、全くないです。小学1・2年生の頃、震災で親戚を亡くした人が集まる会に行きました。東日本大震災当時の映像を見ている時、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんは、泣いていました。「なんで、泣いているの?」と思いましたが、私は涙が出ませんでした。

そして、私が小学5・6年生の頃の3月11日。毎年行っているお墓に行き、家族で夜ご飯を食べていたら、お母さんが私と姉に言いました。

「3月11日、お父さんは岩泉で仕事をしていたんだよ。でも、地震が来た時、お母さんたちのことが心配で田野畑に戻ったの。その戻っている途中、津波に流されて、そのまま……骨も見つからないままなんだよ。」

初めて聞く内容に、私はびっくりしました。何より、すごく悲しかったことを覚えています。お父さんとの思い出は、ほとんどないです。けれど、お母さんから言われたことを聞いたり、思い出すと、心が痛くなったり、締め付けられる感じがして、涙が出そうになります。それでも、私は、お母さんの話を聞いて東日本大震災のこと、お父さんのことをもっと知りたくなりました。

学校の図書コーナーにある震災関係の本を見たら実際の写真があり、私は、「津波って怖いなあ〜。」

「威力、すごいなあ〜。」

と思いました。その中でも私はこの本が良いと思いました。『特別授業3.11 君たちはどう生きるか』という本。この本は、さまざまな人の視点から見た震災への気持ちなどが書かれた本です。この本を読んで、

「この人は、こう思っているんだ。」

「やっぱり、この人も家族を守る! と思ったんだな。」

私の家族もそうだ。震災当時、お母さんは、私と姉を連れて、津波から逃げました。お父さんは、家族が心配で仕事先から戻って来る途中、津波に流されました。お父さんもお母さんも【家族】を第一に考え、行動しました。お父さんが亡くなり、お母さんは、私が小さい時から一人で姉や私を育ててくれました。お母さんとは、喧嘩をしちゃうけれど、今、改めて、これまでの時間のことを思うと、私の家族はめちゃくちゃ良い人だなと思います。おでかけに行った時、

お父さんの居る家族を見ると「お父さんがいたら、私たちの生活は何か変わっていたのかなあ〜」と思うこともあります。ですが、私は、今の家族もお父さんが居る家族もどっちも大好きです。

私は、実体験としての東日本大震災のことはわからないけれど、お母さんの話、本を通して知った東日本大震災のことは、絶対に忘れないです。

私は今、お父さんが居たら私の頑張っていること、楽しいことなど話したいことがたくさんあります。

お父さんへ

聞いてほしいことがあります。

一つ目は、バレーボールのことです。小学生の時から始めているバレーを辞めたいと思うこともあったよ。でも、今、中学生になって、バレーをやっている時は、すごく楽しいし、元気になれます。なぜかと言うと、大会とかで優勝したり、できなかったことができたり、スパイク・レシーブがうまくできた時がうれしくて、それをお父さんに伝えたいです。

二つ目は、学校生活のことです。毎日学校に行き、大好きな友達と話したり、遊んだりする大好きな時間を家族に話す時があります。お父さんにも、たくさん聞いてほしいです。

今までもこれからも私は家族が大好きです。東日本大震災で家族だけではなく、親戚を亡くした人もいて、悲しい想いをした人は数えきれません。だからこそ、私みたいに自分を大切に想ってくれる人がたくさんいることを忘れずに、今、あなたのそばに居る親戚、家族を今までも、これからも大切に生きてほしいです。